

# 北九州水素タウンプロジェクトが運用開始

本年1月15日、経済産業省が行う「水素利用社会システム構築実証事業」の1つである「北九州水素タウンプロジェクト」の運用が開始された。

「北九州水素タウンプロジェクト」とは当社が運転管理を担当している「北九州水素ステーション」から近隣の一般住宅・商業施設・公共施設に総延長約1.2 kmのパイプラインを敷設し、付臭した水素を直接供給することで各施設に設置した純水素型燃料電池を稼働させて電力と熱を供給したり、この純水素型燃料電池に太陽光発電と蓄電池を組み合わせることで3電池連系システムの検証を行うなど世界初の試みを行っている。

本プロジェクトの事業主体は、「水素供給・利用技術研究組合（略称：HySUT）」で、当社のHySUTからの実証試験受託内容は「集合住宅における3電池連系システム運転実証」、「業務用純水素型燃料電池による停電時バックアップシステム運転実証」である。

「集合住宅における3電池連系システム運転実証」は、燃料電池、太陽光発電、蓄電池を設置した住宅の電力負荷バランスに合わせた効率的・安定的運用を検証するとともに、最終的には外部系統電源から独立した完全自立運転を目指すものである。一方、「業務用純水素型燃料電池による停電時バックアップシステム運転実証」は、水素ステーションの停電時に純水素型燃料電池と蓄電池を用い水素自動車への水素充填のために必要な電力を供給することを想定した実証試験を行う。

（システムインテグレート推進事業部 FC開発グループ 濱野 勝）



停電時バックアップシステム実証試験の水素型燃料電池、蓄電池等（北九州水素ステーション内に設置）



3電池連系システム実証試験の集合住宅